

1 . 研究課題名：低炭素社会の理想都市実現に向けた研究

2 . 研究代表者氏名及び所属

中村 勉（社団法人 日本建築学会）

3 . 研究実施期間：平成 20～22 年度



4 . 研究の趣旨・概要

2050 年に都市は、温暖化・資源枯渇の問題と同時に人口減少・高齢化の問題、そして穀物資源不足などの問題を抱えた社会を迎える。

これらの問題は同時に発生し、科学技術だけでは解決を見いだせない。まちに着目して総合的、複合的に解かなければならない。本研究は現実のまちに着目し、都市がもつ歴史的・景観的・生活環境としての魅力を活かし、現実のインフラを最大限に利用しながら低炭素社会にふさわしい環境理想都市をデザインすることを提案する。そして同時に市民生活のビジョンと環境理想都市実現に向けた建築、都市計画、市民活動、都市政策の総合的なロードマップを作成する。

現在の延長線に未来を描くのではなく、理想の未来を描きその実現に向けた具体的なシナリオを作るという「バックキャスト手法」により、2050 年での低炭素社会の理想都市像と市民の低エネルギー型エコライフスタイルを描き、それを都市空間として具体的にデザインすることにより、科学技術発展の方向、新たな産業と市場の創造のイメージも明らかになってくる。

具体的には、環境政策に熱心な 10 万都市レベルのモデル 5 都市を選び、5 つの研究チーム（総括 + 都市デザイン + 市民・社会科学 + 建築設計・環境工学 + エネルギー専門家等）の包括的・有機的共同作業体勢で研究を推進する。

本研究により、2050 年の低炭素社会の都市環境・空間像とその実現のための総合的な方策が具体的都市において明確になることで、他の地方都市での地域特性を活かした低エネルギー型都市づくりや市民生活の誘導が可能となる。

本研究は地球温暖化に対処した環境・経済・社会の三位一体での都市政策の実現に大きく寄与するものであり、中国始めアジアの低炭素社会都市のイニシアティブとしての価値を有するものとなり、国際的な貢献を果たすことができる。

5 . 研究項目及び実施体制

低炭素社会における各手法の効果シミュレーションによる理想都市像の提案  
（総括）（社）日本建築学会）

低炭素社会におけるモデル都市イメージの提案（東京大学）

低炭素社会における市民社会・都市政策に関する提案（日本大学）

低炭素社会における建築・環境工学手法に関する提案（社）日本建築学会）

低炭素社会における建築・都市・市民生活のエネルギー評価（東京工業大学）

6. 研究のイメージ

